

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670101908号		
法人名	財団法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム 愛と結の街		
所在地	鹿児島県鹿児島市小原町9番28号 (電話) 099-267-0533		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月21日	評価確定日	平成21年8月15日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人 非常勤4人	常勤換算15.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1～2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (H21年 6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村病院分院、谷山病院、福原歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人が運営する医療機関を中心に「愛と結の街」の関連事業所を含む広大な敷地の一角に位置している当ホームは、交通の便も良く、地域とのふれ合いの中で生活しやすい環境にある。協力医療機関との連携も確立されており、入居者、家族の安心材料となっている。入居者は週1回の野菜販売を楽しみながら参加したり、月1回の婦人学級や保育園の餅つき大会に出かけるなど、地域の方々と交流を大切にしている。職員はチームワーク良く、入居者や家族の思いを尊重し、地域の中でその人らしく安心して暮らすことができるよう、一緒に支え合う関係を築いている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 同業者との交流については、グループホーム協議会の研修や谷山地区の勉強会に参加し、意見交換や交流を図っている。災害対策の防災訓練も、夜間想定訓練や地域の方にも協力をお願いし、一緒に訓練を行うと同時に、日常的に自主訓練も行いそれぞれ改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価の意義を職員に伝え、自らのケアを振り返る契機となるよう、職員全員で取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は2ヶ月に1回開催し、年間の目標や活動内容報告・行事案内・防災訓練の取り組み・家族会の報告・評価への取り組み状況・看取りの問題等、活発な意見が出されサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や家族会・運営推進会議を利用し、家族の意見や要望を聞くよう心がけている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の文化祭に入居者の作品を出展・参加したり、月1回の地区女性学級に参加するほか、ホーム主催のお月見会や夏祭りに地域の方も来られるなど交流がある。近くの保育園児との交流や中学生・介護福祉士・看護学生の体験学習の受け入れも行い、地域との交流を大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり楽しい暮らしを目指し、共にはぐくむ愛の街」「その人らしい安心と安全な暮らしを地域と共に創る結の街」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所内に掲示し、職員の意識づけを行っている。毎日の朝礼で1分間スピーチのあとに理念の唱和を行い、理念の共有や理解を深めながら、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	6	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の文化祭に入居者の作品を出展・参加したり、地区の女性学級に参加するほか、ホーム主催のお月見会や夏祭りに地域の方が来られるなど交流がある。保育園児や中学生との交流も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し全職員で自己評価を行っている。自己評価を行うことで、自己の振り返りができ、ケアの質の向上につながると職員も話している。昨年の外部評価の改善項目についても、検討し改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を主催し、年間の目標や活動内容報告・行事案内・防災訓練の取り組み・家族会の報告・評価への取り組み状況・看取りの問題等、活発な意見が出されサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と入居者の状況について、情報交換や相談を行いながら連携を図っている。市の介護相談も受け入れている。運営推進会議には地域包括支援センターの職員も毎回参加し共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会・行事の機会を利用し、入居者の暮らしぶりや健康状態の報告をしている。職員の異動については、面会時や家族会で紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会・運営推進会議の中で、家族の意見や要望を聞くよう心がけている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の法人内職員異動のため、家族の不安傾向があり配慮しているが、馴染みの管理者や職員による支援という体制に至っていない。	○	入居者へのダメージを防ぐため、また家族の不安を招かないために、職員の異動等に配慮することが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が交代で参加し、伝達講習も行っている。毎月法人内研修にも参加している。新入職者にはプリセプター制度を導入し、資質の向上に向けた取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修での交流を図ったり、谷山地区の勉強会にも交代で参加し、意見交換を行うなどサービスの質の向上を目指した取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、本人・家族の意見を聞き説明を行っている。入居前にホームを見学してもらい、他の入居者や場の雰囲気に馴染めるよう、お茶飲みを一緒にするなど配慮している。入居後も家族に面会に来てもらい徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを、職員は共有しており、野菜作り・料理・梅干し作り等、得意分野を発揮してもらう工夫をしている。週1回の野菜販売は楽しみとなっている。職員は入居者と支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち制を導入し、家族からの情報や日々の生活の中で表情から気持ちを察し、希望を聞きながら本人の意向を重視した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や要望を聞いたり、ケアカンファレンスで職員の気づきや意見交換を行い、個別に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6ヶ月に1回の見直しを行っている。入居時は、初期カンファレンスをもち計画を立てている。状況変化時は、随時見直しを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしてい る	家族と話し合いながら、本人の意向に沿った通 院の支援をしたり・美容室への送迎を行うな ど、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医での受 診を支援している。24時間適切な医療処置が 受けられる体制にある。母体病院からの医師の 往診も月1回行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、で きるだけ早い段階から本人や家族等ならびにか かりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共 有している	重度化や終末期の対応については、入居時に ホームでできる事を説明している。重度化した 場合は主治医・職員・家族で話し合いを持ち、 方針を共有し支援する体制作りができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよう な言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱い をしていない	管理者は、入居者のプライバシー確保の重要性 に留意し、職員の誓約書を作成し徹底してい る。また日々のケアの中で、自尊心を大切に した声かけや、対応の仕方を職員に指導してい る。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や調理時に業務優先になりがちな時は、職 員間で声かけしフォローしながら、入居者の ペースに合わせた支援を行うよう心がけてい る。起床や食事の時間・散歩・外出等、希望に 合わせた支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々のレベルに合わせて、野菜の下ごしらえ・食事の盛り付け・配膳・下膳・食器洗いなど、できる事を一緒に行いながら食事を楽しめるよう支援している。誕生会では本人の好みのものを把握し対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが、その日の本人の希望を聞きながら週3回の入浴ができるよう支援している。入浴拒否の方は清拭したり、家族の協力をもらいながら対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を考慮しながら園芸・掃除・料理・だんご・ちまき・おはぎ・梅干し・切干大根などを作ったり、野菜の販売を行ったり、それぞれの生活を楽しめるように支援している。ボランティアによる大正琴や踊り・紙芝居等も楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や買い物・女性学級への参加・ドライブ・花見・外食など、外出の機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急通報システムを整備し、避難経路・避難場所の確認を行うと共に、地域の方々にも協力をもらいながら年2回防災訓練を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を把握し食事形態も工夫している。法人の栄養士にアドバイスをもらいながら栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチや季節の花が飾られ、リビングは明るく、入居者と一緒に作った壁飾りがあり、廊下にはソファが置かれ、畳スペースもあり、自由に居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ・時計・ソファ・テーブルやお気に入りの写真・観葉植物等が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。